

常なる磐

つねなる いわ season II
令和3年9月24日(金)

◇ 岡崎市のコロナ感染 一考察

先日のこと。

児童の登校時、全校放送で「緊急地震速報」が発出され、校内の全校放送で流れた。『地震発生まで、あと30秒……20秒……10 9 8…』

桜階段を登りかけていた児童を呼び止め、立ち止まるように指示をする。指示はここまでだが、速報を聞いた児童は、そのまま自然としゃがみこんだ。シェイクアウト（身を守る体勢）である。

『…3 2 1 0』。幸いなことに地震の発生はなく、暫く待って児童に校舎に入るよう促した。実践に即した防災訓練のような形となったが、指示がなくとも動いた子供たち。特に、真っ先にしゃがみ、示範で下級生を導いた上級生に大拍手。

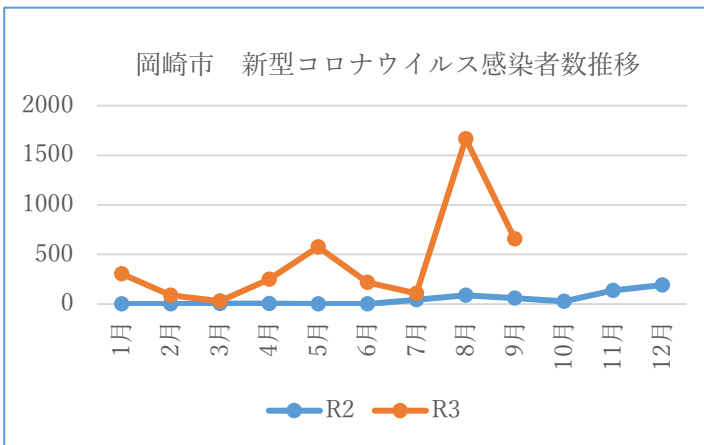
さて、「新型コロナ」について、長らく気になっていることがある。感染者数だ。テレビをはじめとする報道で発表される数は「その日の人数」がそのほとんど。比較対象値は近日の値で、「〇〇日以来」と言われても、全くピンとこない。

そこで市内の数値に焦点を当て、自分なりに分析して考察を述べることにした。

岡崎市の新型コロナウイルス感染者数一覧

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
R2	0	0	4	5	0	0	43	90	59	27	137	192	557
R3	304	89	29	251	576	217	108	1665	657				3896
													4453

上の表が、9月中旬現在の岡崎市の「新型コロナウイルス感染者数」の年次・月別の一覧、右がその数値をグラフ化したものである。



昨年（令和2年）の状況はすっかり頭から抜けてしまっていたが、令和2年は罹患者数が0人の月が1・2・5・6月と4か月あり、3月・4月は一桁。本市の本格感染は7月からであったことが読み取れる。これがいわゆる第2波で、年末から年明けにかけてが、緊急事態宣言が発出された第3波だ。

（注：本文の「昨年」は令和2年を指す。令和3年9月現在のデータは表とグラフに示す通りである。）

裏面の一覧表は、令和2年と3年を月ごとに配置をしたが、上下段の数値に注目すると、新型コロナウイルスの特徴が見えてくる。

以前の「常なる磐」で、「ウイルス」という大きな括りでは【乾燥に弱い】と書いたことがある。これは海外の研究者の実験によって立証されていることだが、こと感染となると、「インフルエンザウイルス(※夏季は気温が高く湿気も多いためウイルスの動きが鈍る。対して空気が乾燥した冬季はウイルスの活動が活発となる)」のように冬季に感染が拡大するウイルス感染特有の傾向は見られない。

言い換えれば、「経口感染」が明確となり、ウイルス数ではなく、感染力の強い変異型の発生が感染の拡大を左右しているとも言い切れる。

研究者によれば、新型コロナウイルスの変異型は、これまで報道された α (アルファ)型、 β (ベータ)型、 γ (ガンマ)型、現在も猛威を振るう δ (デルタ)型、今後拡大が心配される μ (ミュー)型以外にも20種類以上が確認されており、今後も次々に現れるだろうと予測されている。

ただし、感染防止に向けた環境は、日増しによい方向に向かっている。ワクチン接種済み国民の増加である。これも研究者の受け売りだが、どの変異型にもある程度の効果は認められるとのことだ。

さて、岡崎市の現況分析に戻る。

9月中旬現在、り患者総数は、市内で4,000人を超える。人口比(約387,000人)で見れば1.1%である。日本の全人口を対象とした数値1.3%を下回っているものの、ほぼ同等数。首都近隣には及ばないが、決して低い数字ではない。

さらに、愛知県の値と比較した場合、県が人口比0.73%であり、岡崎市は県平均数値を大幅に上回る現状にある。

その他の主な他の市町の人口比数値を見てみると、名古屋市が1.8%、豊田市が1.1%(※豊橋市は0.66%で県平均以下)と、政令指定都市や中核市の大都市の値が高い傾向にあることが分かった。

これが濃厚接触者数となれば、数値は数倍に跳ね上がることだろう。PCR検査数も罹患者数の4倍である。こうした数値を見れば、新型コロナウイルスが、いかに日常生活に迫ってきているかがお分かりいただけるのではないかと。

岡崎市も12歳以上の市民に対し、ワクチン接種券の配付が始まった。心配なのは11歳未満の子供たち。予防接種の権利のない小学生&未就学児なのである。しかも、どれだけ気をつけて生活していても感染の可能性があるのが新型コロナウイルス感染症である。改めて、各所における感染防止対策の徹底をお願いしたい。